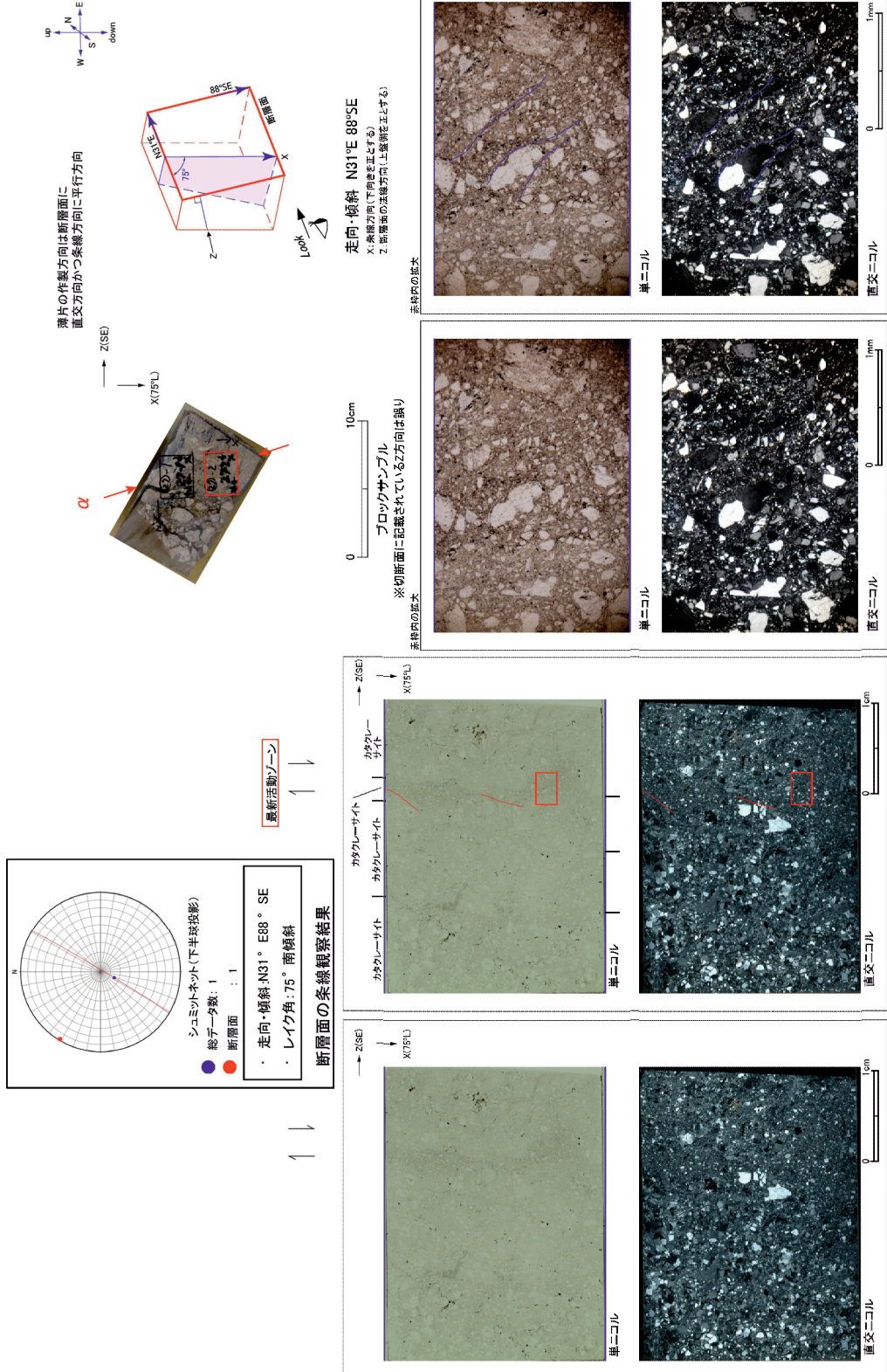


・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

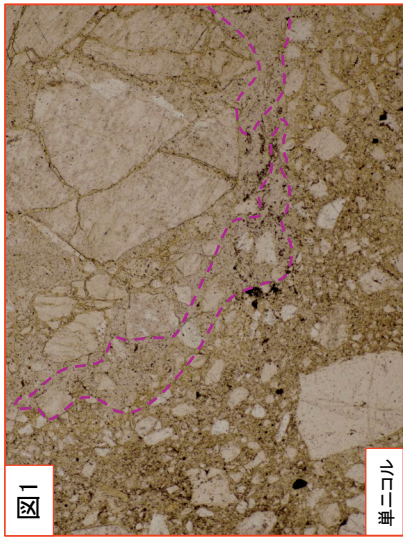
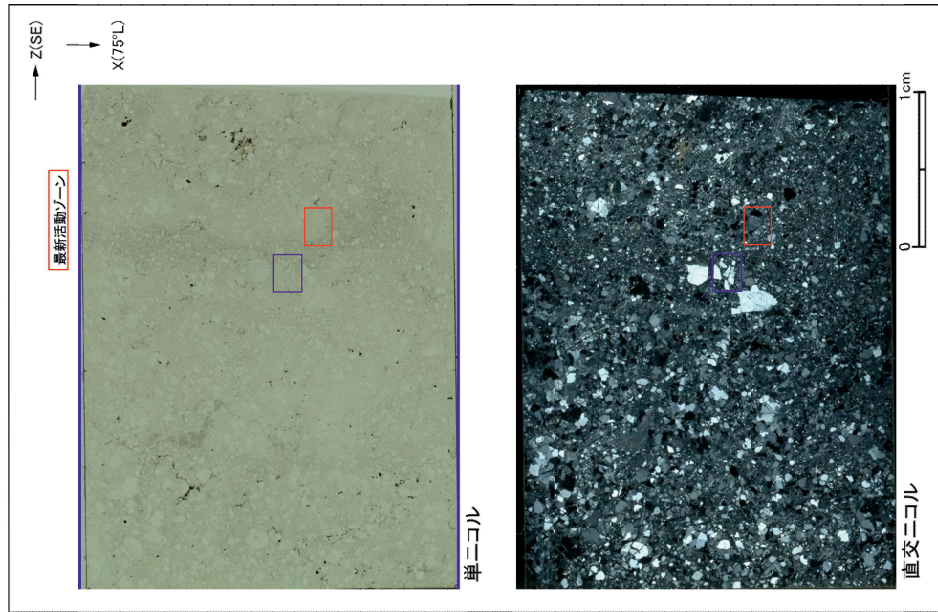
- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状の岩片が局所的である。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

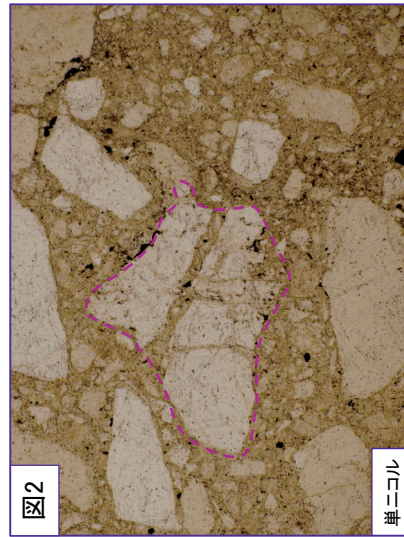


第7.4.4.287図 (3) 破砕部性状 H27-B-2 深度60.26~60.69m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

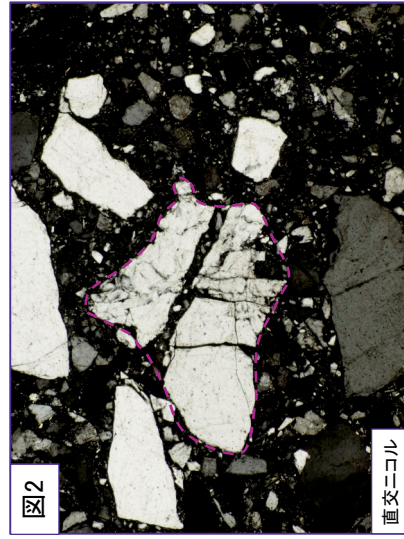
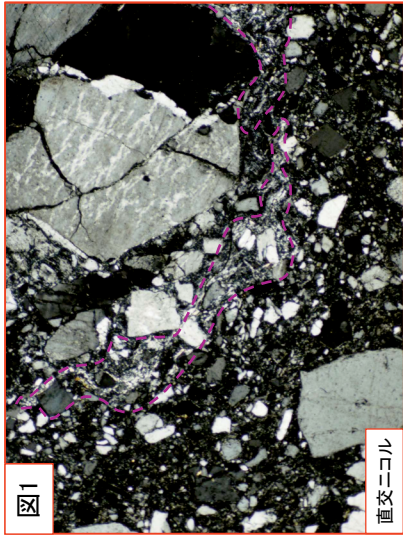
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 断層面に沿った帯状の粘土状の岩片は局所的である。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



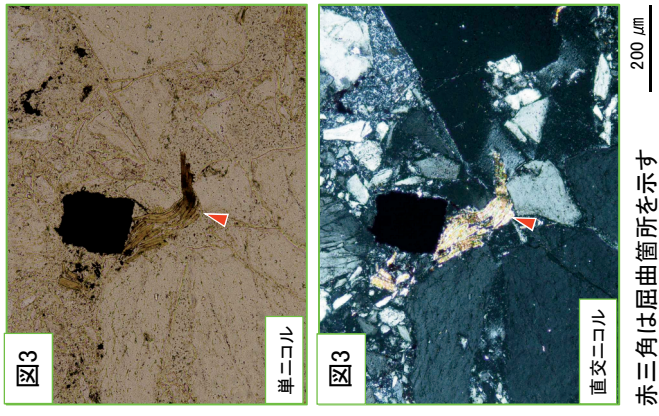
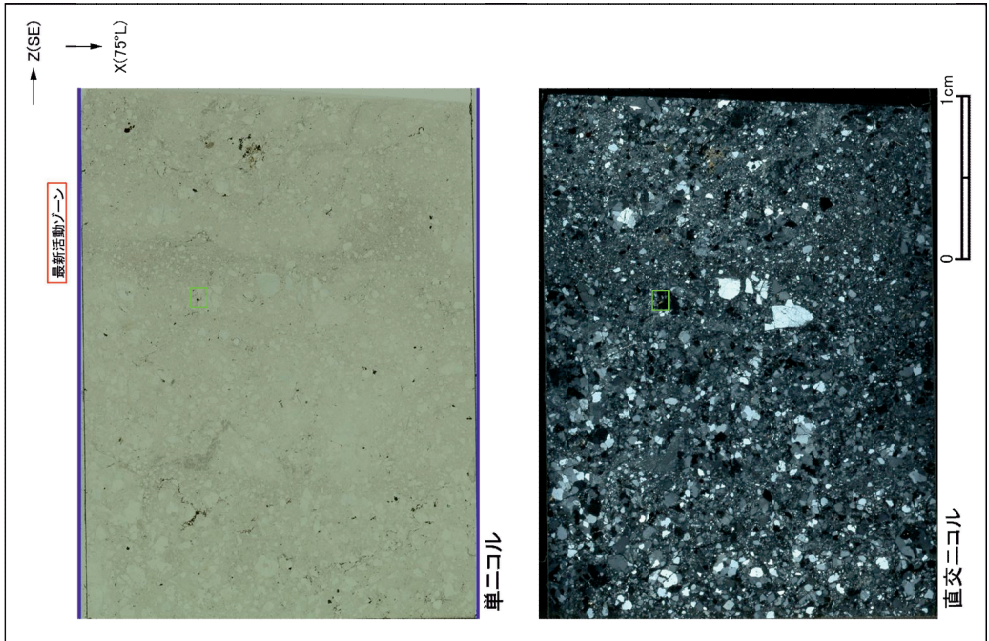
破線は粘土状部の分布範囲を示す



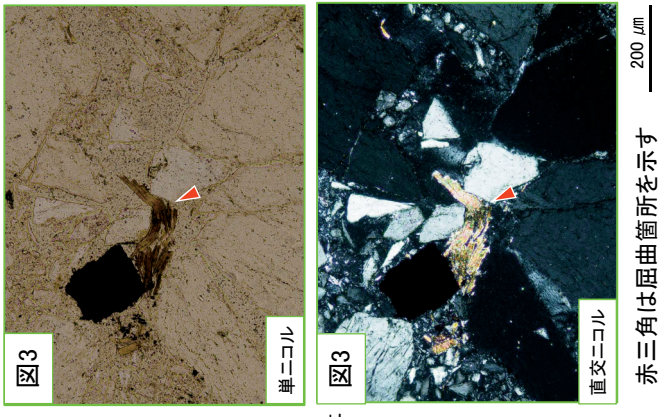
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。  
 > 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)



ステージを反時計回りに  
 約45度回転



第7.4.4.287図 (5)

破碎部性状 H27-B-2 深度60.26~60.69m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

(肉眼観察結果 深度60.59m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化し岩片からなる組織も認められませんが、粘土の境界面は波打ち直線性に乏しい。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\alpha$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\alpha$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - 帯状の粘土状部の分布は局所的である。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - 角ばった岩片が多い。
  - ジグソー状の角礫群が認められる。
  - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの詳細部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から変質したカタクレーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
無	-	-

\*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度61.29～61.41mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、全体にやや軟質で、一部軟質部を含むが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度61.41～61.43mの「粘土状」と記載の箇所については、やや軟質で、細粒部の上端の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度61.43～61.69mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所のうち、深度61.43～61.50m間については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度61.50～61.69m間については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

### ボーリング柱状図

●61.29～61.69m：破砕部 (D-1)

61.29～61.41m：粘土混じり岩片状部 (Hj)

上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHc-1の粘土とほぼ同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目で径5～10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなる。にぶい橙色を呈する。幅100mm。

61.41～61.43m：粘土状部 (Hc-1) 傾斜50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。径1～2mmの石英粒、径3mmの岩片を約5%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5～15mm。

61.43～61.69m：粘土混じり岩片状部 (Hj)

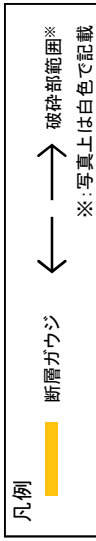
上端50°、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ「D」の径5mmの岩片と、岩片間の斑点状～細脈状(幅1mm)の軟質白色粘土からなる。上端側は粘土化が著しい部分がある。にぶい橙～灰白色を呈する。

### コア写真



61

62



※:写真上は白色で記載

連続性及び直線性が良い細粒部



細粒部は局所的に分布する

青粋部拡大

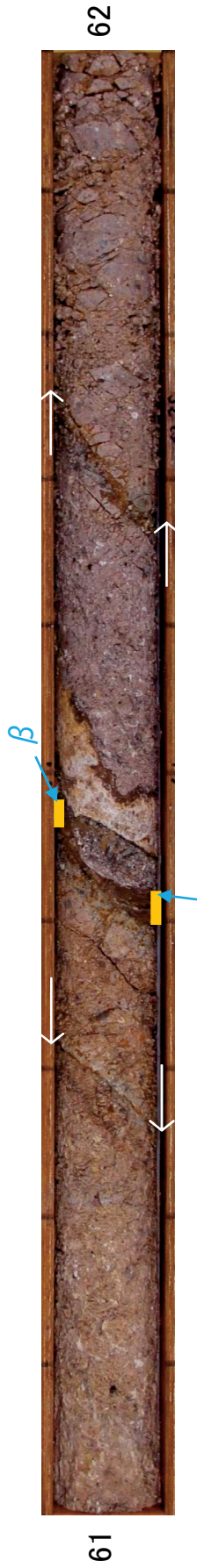
0 5 cm

細粒部が網目状に分布する

・薄片は断層面  $\beta$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面  $\beta$  は最新活動面

コア写真

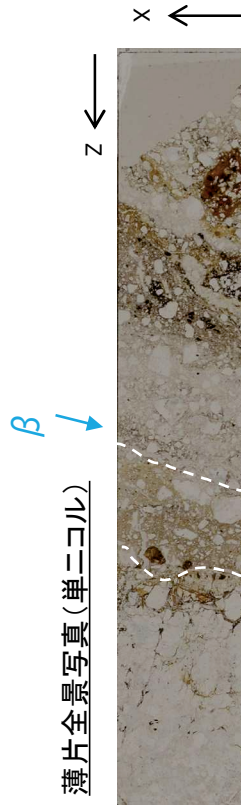


薄片作製位置写真



X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

5 cm



薄片全景写真(単ニコル)

X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

1 cm

第7. 4. 4. 288図 (2) 破碎部性状 H27-B-2 深度61. 29~61. 69m (薄片作製位置)